

ホーム名： グループホーム白馬（ なごみ・ゆとり ）					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	周辺症状に対してのケアはもちろん、加齢と共に高まる医療ニーズにも対応し、住み慣れた地域・ホームでの生活が少しでも維持されることを理念で謳っている	理念3項目を掲げ、玄関に提示している。理念に沿って、威圧的にならないよう言葉遣いや態度に気を付けながら支援を行っている。	理念は誰にでも解る言葉で端的に表したものが望ましい。本ホームが一番に目指すことは何か、大切に思う事は何か…。職員全員で考えてみられたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ホームは地元自治会に加入すると共に、校区の「地域ケア会議」に参加している また地域の民生委員や自治会長にはホームでの会議に参加いただいている	自治会に加入しているが、日時が合わない事もあり地域の行事には参加できていない。散歩時には近隣住民との触れ合いがある。昨年はボランティアの受け入れは無く、今年は予定を組むつもりである。	戸建て住宅が広がる地域である。近隣の方々と触れ合う事で、認知症の理解が深まる事につながる。ホームでの催しに参加して頂けるような取り組みを含め日常的な交流を継続的にされる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の居宅介護支援事業所からも認知症ケアに悩まれるご家族の方を連れてこられたり、また介護支援専門員の方もケースにかかる相談に来られ、「在宅介護」の相談という役割を果たしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの運営状況の報告をもとに質疑応答を行なう ホーム内のヒヤリハットと事象などについて、特に診療所看護師からは毎回意見が出され、日々の業務にいかしている	入居者・町内会長・福祉委員・民生委員・市職員・隣接病院看護師の出席で、年4回程開催されている。現状報告・行事報告・ヒヤリハット報告・質疑応答等がなされている。8月の会議は夏祭りを兼っており、家族の出席がある。	主役の一員である家族には、運営推進会議の意義をよく伝える事で出席につなげられる様取り組まれたい。運営推進会議を年間行事に組み入れ、2か月に1度の定期開催を目指されたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員派遣事業や認定調査等担当者はしばしばホームを訪ねられ日常的に助言を受けている 特に介護相談員は個々の利用者との面談の中で出されたホームや家族への要望の報告をして下さり、スタッフの知らなかったご本人の声を把握する機会	市介護保険課職員には運営推進会議へ出席頂いている。相談し易い協力関係が築かれている。毎月1回介護相談員の訪問を受け、助言等を頂き支援に活かしている。	市職員に運営推進会議へ出席頂いている事で、実情の把握や取り組みの様子など実際を見て頂いている。今後も直接の指導や助言で、益々のホームの充実につなげていかれたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を理解し、拘束は管理者が最終的に決断し、家族の了解を書面で得ることとしている 玄関の施錠は漫然とはせず、状況によって判断している	玄関口は、寒い時を除いてほとんど施錠していない。ユニット間は行き来自由である。脚力の低下にみられる転落防止の為、ベッド柵の設置・鈴・センサー等の取り付けをしている入居者が数名おられる。	職員でよく話し合った上でのベッド柵・鈴・センサーの使用との事である。ベッドが当り前と考えず、床敷寝なども試みながら支援方法を考えてみられたい。また車椅子使用も同様、普通椅子やソファへの移乗での生活も検討されたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に夜勤帯は平屋建ての利点を活かし2名で連携して業務にあたっている 服薬確認やトイレ介助など夜勤2名のスタッフが協力して業務にあたることで、精神的負担の軽減に努めている		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の中に両制度を利用されていた方がおられ、ケースを通じて制度の趣旨を職員会議で共有している</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護報酬や制度改正の度、文書での説明はもちろん、電話来所での相談に応じ、ご家族の不安疑問の解消に努めている</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市の介護相談員は毎月6～8名の入所者と話し合われ、聞かれたことはスタッフに伝えられる。また投書箱や外部への苦情申立など、入所時に説明を行っている</p>	<p>入居者に対して担当の職員を配置（担当制）し、支援及び家族との連絡を中心的に行っている。その様な中で、要望等を伺っている。玄関に「投書箱」の設置がある。普段日のホームへの来訪者は多い。</p>	<p>担当は1年毎に代わり、「夏祭り」の時に紹介がなされるこの事。15名の職員が2ユニット全入居者の支援をしており、その中で担当の職員の顔を覚えるのは大変である。家族が担当者を見分けられる良い方法を更に考えてみられたい。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフからの意見や提案は、職員会議の前に受け付けることにしており、自発的な意見の集約に努めている</p>	<p>会議の前には思っている事などを一筆書いて「意見箱」の中に入れる制度があり、普段から提案や意見を出せる体制がある。嚙下状態が悪くなっている方の椅子に座っている時の体勢について、食べこぼしの多い方のエプロン使用についてなど、意見が出され改善に向けて反映がなされた。</p>	<p>開設時からの職員が4人、また5年以上の職員も半数近くおられ、チームワーク良く連携も出来ている様子である。意見や提案をどんどん出し合い、支援の充実、また働きやすい職場へとそれらを反映させていって頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>重度化に伴い身体的な介護が増えている。クリニック職員による入浴介助・受診時送迎の支援を受けて職員負担を軽減している。また突発的な腰痛や倦怠感など業務中の体調変化については、併設している診療所での受診を勧め、職員の体調管理にも留意している</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護職員が外部研修に行く機会が少なく、十分な研修ができなかった</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域の事業者との窓口には計画作成担当者がなり、地域の事業所の訪問・勉強会などに参加している</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族やケアマネジャーから利用相談を受けてから、ご本人に面接を行い、本人の意向を確認してから本人・家族からの情報収集を行い、必要な情報スタッフで共有し、安心して入居後のケアを受けてもらえるようにつなげている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前の面接により家族本人のニーズを把握し、また入居後も面会や外出の機会を作っただき精神的な支援の関係を共に作るように働きかけている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所後生活の場が変わっても、受診やリハビリなど個々に応じたサービスを検討し対応に努めている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物を干したりたたんだり、野菜の皮向きや食器ふきなど、能力によって「役割」を分担している</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入所後は面会の回数や外出の回数が少なくなることが多いが、衣服の入れ替えや、外出外泊、日常的な面会など家族の精神的支援は必要であるため、役割を果たしてもらうべく担当者を決めてご家族に声かけをしている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>子どもさん宅のある本市に「呼び寄せ」られた方が多く、逆に独居で暮らしていた他県への思いをもたれている方も多し。また近隣の自宅から来られた方のご近所からは、植栽の剪定・雑草の処分についての苦情が頻繁に寄せられ、ホームスタッフが現地に赴き、清掃に努めている</p>	<p>家族の協力を得て墓参りなどされている。以前家族と行かれていた喫茶店や買い物などの外出は年々体力的に難しくなり、近頃は家族の方が来訪して下さる様になっている。友人の方の来訪も度々ある。</p>	<p>馴染みの人や物、場所等との関係がより長く続くよう、支援の継続に努めて頂きたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>このユニットの入居者は75～80代の方が多く談笑されていたり、90代の方に対する「配慮」もなされている</p> <p>必ずしも良好な関係ばかりではないが、入居者間の関係を見極め、座席の位置や作業の内容やメンバーにも配慮している</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>病状の悪化などで退去になられた方も、介護やサービスの利用について相談に来られれば支援し、また再入所の事例もある</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の家族からの聞き取りを行うと共に、日常のやりとりの中から、本人の思いや希望を汲み取っている	担当職員は、行動を共にする（衣類の入れ替え等）事で意思疎通を図り、把握する事に努めている。また丁寧に話をし、ゆっくり聞き出す事に心掛けるなどコミュニケーションを大切にしている。	今後も担当制を活かした取り組みで、より深く本人の希望や思いを汲み取る事に努めていって頂きたい。また職員全員でその思いを共有し、支援に活かしていって欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前の面接ではご家族や本人から生活歴や直前までの経過を聞き取っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞き取っている 居宅サービスや施設利用などケアマネジャーからの情報提供に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者には担当者を決め、家族との窓口になっている 家族からの要望意見は管理者・計画作成担当者に伝えられ、介護計画に反映するようにしている	“入居者が楽しく暮らす”ことを目標に、介護計画を作成している。家族からの要望を踏まえ、医師や理学療法士（PT）と相談、アドバイスを受けながら反映し作成している。介護計画の見直しは6か月毎に。長期目標、短期目標は共に6か月の設定である。	楽しい毎日、張り合いのある毎日を過ごす為には、達成感を味わえる様な個々に副った身近な目標設定、介護計画が望ましい。毎日継続する事で、心身豊かにまた体力増進に繋がれたらと思う。計画書を見て、誰のものかすぐ判るような介護計画書でありたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は詳細な記述に努め、とりわけ夜間（夜勤帯）は1時間おきに状態を記録し、睡眠や排泄パターンを理解し翌日のケアや介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族さんが遠くに住まわれているなど日常的な支援が困難な方もおられ、ホームでの生活支援以外に「買い物」「他院受診付添」「留守宅の見回り」など、できる範囲で行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民などの支援があって入居された方については、引き続き精神的な支援をお願いしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的にはホームの協力医療機関で受診しているが、入所前から通院されていた婦人科・口腔外科については本人の希望するところに行かれている	隣接の提携病院より往診があり、水曜日全員が受診している。医師の指示の下、病院でリハビリ等受けている。金曜日は希望者のみ歯科の往診もある。介護タクシーを使い、外部ヘルパーを依頼しての口腔外科受診をされている方もおられる。	医療に関しては管理者に一元化した対応をとっている。適切な医療を受けられるよう、今後も医師や家族と連携を図りながら支援に努められたい。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>毎日隣接している診療所の看護師に気になることを報告し、医療以外に栄養や介護のことまで、判断に困ることの助言を受けている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>隣接している診療所には入院施設があるので、日常内科で入院の必要がある際は隣接している診療所に入院することが多い。日常的に訪問診療などで主治医も個々の入所者のことをよく把握され、早期に退院できるように相談をしている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化しホームや併設の診療所での対応が困難となり、他施設での対応となることは家族会あるいは個別に伝え、近隣の療養型病院・施設へ紹介している</p>	<p>嚥下状態が悪くなり、ミキサー食が呑み込めないような状態になったら近隣の病院等を紹介している。このことは、事前に家族へ伝えている。が、過去一人の方を看取った経験があり、対応マニュアルは作成されている。</p>	<p>長年住み慣れた場所で最期を迎えたいという要望もこれから増えると思われる。家族や医療機関との連携などで、今後事業所で対応できるケアについて積極的に話し合われることを希望する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>発熱に対しては対応をマニュアル化している。その他鼻出血・嘔吐などの突発的な症状の際は、隣接している有床診療所の当直医・看護師の指示を受けている</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震・火災時は隣接している診療所の駐車場を避難場所に定め、避難誘導時の診療所スタッフの応援を受けることになっている</p>	<p>直近の避難訓練は本年1月15日に、洗濯室からの出火を想定し、初期消火と消防本部への通報訓練、入居者の避難誘導訓練を行なった。</p>	<p>今後とも消防・役所・警察等との連携指導の下、地震・津波・火災等に備えて頂きたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や食事介助の声かけの仕方にも注意をし、申し送りを「現場（フロア）」でする際はイニシャルを用いるなど、他の入居者にわからないように配慮している また「ホームだより」など外に出す印刷物、運営推進会議時の「ヒヤリはっと」報告等には入居者の個人名を書かない	特にトイレ介助での対応や排泄量の言い方等に気を付けている。また申し送り時には直接名前を発しないよう気を配っている。名前で呼んで欲しいと言う人以外は姓の“さん呼び”を基本とし、上からの物言いや態度にならない様に気を付けている。	今後も人格を尊重した対応で、入居者の尊厳を守りながらの支援を継続されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や表現が十分にできない方については、時間をかけた声かけをして自分の思いを伝えてもらえるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごすことが好まれる方は居室で過ごしてもらっているが、不安や混乱などが生じやすい方にはフロアで過ごしてもらうようにしている また入居者同士のコミュニケーションがとれるように、午前中はフロアで過ごしてもらうように声かけをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットは毎月行っているが、「いきつけ」の美容院にパーマや毛染めに行かれている方もおられる		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブル拭き、食器拭き等出来る方には一緒に手伝っていただいている 食事は毎食一緒に摂っているが、食欲低下の方には、漬物・佃煮・梅干等持込をしていただいている	メニュー作成は2週間毎の交替で、手作りをし提供している。水曜日は往診がある為弁当をとっている。家族へ毎月の便りと共に、食事量を報告している。食事中は会話を少なくし、BGMを流しながら食事に集中出来るようにしている。	月1回の外食や誕生日のケーキ、季節の行事食など食の楽しみも多く提供している。いつまでも経口摂取が続くよう、嚥下体操を日課として組み入れるなど嚥下機能を高める取り組みを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	体重や疾患によっては嚥下のしやすい食材、食事量・水分量の調整をして提供している 食事療法が必要な方には治療食を外注できるようにしている またマヒや筋力低下に対して食器の配置・すべり止めマットの使用など個々の対応も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい（歯みがき）を必ずしてもらっている また毎週歯科医・歯科衛生士による口腔ケアを受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中3時間ごとの声かけ・トイレ誘導を、失禁のある人には紙パンツを使用しているが、布パンツにナプキンの併用など、紙おむつを漫然としないように努めている	自立している人は2、3人。昼は全員リハビリパンツか布パンツである。排泄状態を記録に残している。尿量の多い人に関して製造会社に相談し、適したパットの使用を図った例もある。	自分でしている、というプライドを持たせながら、さりげない手助けを今後も継続願いたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導のたびに排便を確認し、便秘が続いたときは利用者ごとに対応を定めている 日常的には水分摂取を時間を決めて行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	すべての希望に応じた入浴は行っていない 週3回入浴を基本としている	月水金の週3回、入浴を行っている。半数の人はクリニック職員の介助により隣接病院の機械浴を利用している。現在入浴を嫌がる人はおらず、洗顔やシャンプーは個人の好みの物を使いながらくつろいだ気分で入浴出来る様に支援している。	1対1で向き合える時間を楽しみながら、安心安全な入浴支援を継続されたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	離床をすすめる一方、体調や状況に応じて居室のベッドで臥床してもらっている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科・整形・眼科・泌尿器科など複数の診療科目も同じ診療所・調剤薬局から処方を受けているので、調剤薬局でもチェックを受けるほか、薬局からの薬剤情報を各利用者のカルテに綴り、いつでも最新の投薬内容・用量について把握している		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることに応じた役割を持ってもらうように努め、食事の用意・片付け・洗濯・掃除・レクも本人の状況に応じて準備している		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候のいい時期は月1回程度ユニット毎の外出外食の機会を設けている。またご家族の付添があれば外出は自由であり、服薬の調整をしている。気候がいい時は玄関先に椅子を並べ外で座ってもらっている	近所の住宅地を、花の名前や犬の名前を訊きながら日常的にゆったり散歩を楽しんでいる。ドライブには、海・かるがもの里・紫陽花・紅葉など楽しみに出掛けた。月1回の食事外出も楽しんでいる。	玄関先の椅子からは燕の巣やメダカ、また付近の緑を眺める事が出来、季節を十分に楽しめる環境である。今後も戸外に出る支援を楽しみながら継続されたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自宅から入居された方は、財布を持っていないと落ち着かない方もおられる。以前は一律禁止していたが、家族と相談の上少額を所持してもらっている方もおられる		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	不安が高まると家族への電話を求められることが多いが、電話の取次ぎは日常的に行っている		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境を保ち、落ち着いた生活をおくっていただいている	ユニット間の中庭には透明の屋根が張られ、雨の日でも出られる。ここにはタイルの装飾を施した南欧風のテーブルが置かれ、それぞれ多くの人が座れる数の椅子もあり、明るく日常的に外気に触れる事が出来るように工夫されている。	毎日の掃除以外にも週1回のクリーンデイを設け、換気扇や椅子などの特別掃除で共有部分の清潔を保っている。居心地のよい空間作りに今後も取り組んでもらいたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り集まって個々に談笑されている。長い生活の中で個々の席の場所も決まっています、穏やかに過ごされている		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に私物を持ち込んでもらっている。倒れるものなどは危険なため制限している	各居室には、ベッド・エアコン・チェスト・テレビ・洗面台・ナースコールが備え付けられている。居室入口には写真を貼った名札が掛けられ、室内には自ら制作したぬり絵のカレンダーが貼られている。	もう少し思い出の品や写真などを飾る事で、その人らしい部屋作りが出来たらいいと感じた。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差もなく、また洗剤などのある部屋・浴室は施錠して事故を防いでいる		

## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられれている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない